

巻 頭 言

愛媛大学工学部等技術部長
(工学部長) 曾我部 雄次

愛媛大学工学部等技術部の平成26年度における活動状況を「愛媛大学工学部等技術部活動報告集 Vol.14」として取り纏め、皆様方にお届けいたします。

第二期中期目標・中期計画期間も本年度が最終年度となり、平成28年度から第三期に入ります。文部科学省は第三期中期計画期間の始まる平成28年度に合わせて、全国の国立大学を「全学的に世界最高水準の教育研究を目指す大学」「特定の分野で世界的全国的な教育研究を目指す大学」「地域活性化の中核および特定の分野で世界的全国的な教育研究を目指す大学」の3グループに分類し、それぞれグループ内での競争を



促す狙いから、グループ内で高い評価を得た大学に運営費交付金を手厚く配分することを明らかにしました。愛媛大学は第3グループの「地域活性化の中核…」を選択することが予想されます。

このような情勢の中、運営費交付金、研究や教育における資金の獲得、受験生の獲得などの多くの事柄が、競争的環境の下にさらされることでしょう。さらなる地域活性化を目指すためにも、教員と技術系職員一丸となってこれらの競争に打ち勝つ組織作りを行わなければなりません。

愛媛大学では自ら問題を発見し解決できる想像力豊かなたくましい人材、そして国内にとどまらず世界で生きいきと活躍できる人材の養成に力を注いでいます。このような人材の養成には、従来の講義形式の授業では不十分であることは明らかであり、実験・実習はもとより種々の学生参加型の実践的教育の導入・充実が重要です。このような実践的教育では、教員だけでは十分な効果を挙げることは困難であり、現在では教育面での技術系職員の協力も不可欠となっています。

教育研究以外でも、工学部等技術部は、科学体験フェスティバル等の学外者を対象にした社会貢献行事への支援等、幅広い活動を実施するとともに、学内技術職員発表会の開催や各種研修会への参加を通じた技術力向上の取り組みなど多彩な活動を積極的に行ってきました。

技術部に期待される役割が、従来の教育・研究支援にとどまらず、より広範な範囲の業務に対する支援にまで広がってきている現在、より広い意味での「技術力の向上」が重要だと考えています。日常業務が増々多様化し、かつ多忙となる中での「技術力の向上」には多くの困難が予想されますが、愛媛大学のさらなる発展に貢献できる技術部を目指して、技術部スタッフ一丸となってさらなる努力をいたす所存でございます。

最後に、この活動報告集が工学部等技術部の広報活動の起点となり、多くの方々からのご助言を得て、技術部の今後のさらなる発展につながることを期待しております。ぜひご一読いただき、技術部へのご理解とともにご批判ならびにご鞭撻を賜れば幸いです。